

令和8年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

両城中学校区 校番 14 学校名 呉市立港町小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	目標、指標が設定され、中間の評価において、変化なく継続されている。教職員が相互にこれを意識し共有されていることが伺える。引き続き継続されることを期待する。
目標達成のための方策の適切さ	A	目標達成のための方策も継続、維持されていることは評価できる。教職員間での情報の共有がなされていることが評価できる。方策の柔軟性も軸が堅持されている限りこれを肯定できるものであり、如何なる方策が児童に適切であるかを常に考慮しながら教育の実践を計っていただきたい。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	自己評価の結果と分析も評価できる。分析においては、常に教職員が謙虚であることが重要であるところ、これを肯定できる。中間までの分析を再認識し、教職員間でのそれを共有することを期待したい。児童たちの教育実践にこの分析が反映されることを大いに期待したい。
今後の改善策(案)の適切さ	A	向上的な改善策であると評価する。改善策は無理のないものでなければならないが、消極的な改善策であるならば、意味をなさい。改善策は、より質の高い教育を目標としなければならぬところ、確実な向上を目標とした改善策である。
その他		この度、文部科学省から教職員への保護者の対応の指針が示されたようである。つまり、児童の保護者に対する行動、言動についての指針である。指針の趣旨を理解し教職員は、保護者の行動、言動について疑問が生じた場合は、教頭、校長にすみやかに相談するべきである。保護者の適切でない行動、言動を放置することは、学校教育の利益にならない。教職員の毅然とした行動が期待される。教職員と児童との信頼関係は大切であるが、教職員と保護者の信頼関係も大切であることを忘れてはならない。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	今回の学校運営協議会では、児童がタブレット端末だけでなくノートに手書きで記録していること、自ら考えて取り組んでいることに安心したという意見や午後からの授業でも真面目に授業へ取り組む姿、単に計算式を丸暗記するのではなく、対話を通じて「なぜそうなるのか」を考え深める授業スタイルの工夫に感心したと肯定的な意見をいただいた。また、AIやスマホの普及による変化の中で、自分で調べ、考える力を育む重要性や、相手の立場に立って想像する力の育成や習慣付けが大切ではないかという建設的展望が示された。これらを踏まえ、今後もICTの活用とノート指導の徹底を図るとともに、引き続き対話を通じた考えを深める授業に取り組んでいく。さらには、PTA活動や地域学校協働活動を通じて信頼関係を深め、地域や保護者と連携しながら、ともに児童を育てる学校づくりを進めていく。
--------------------	--